

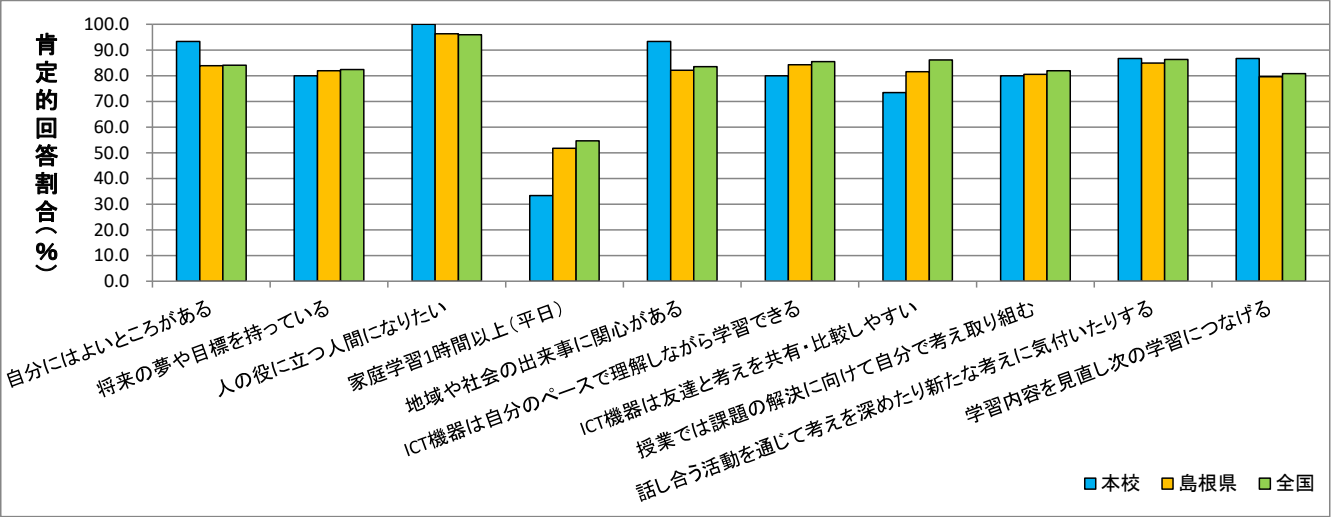
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○「話し言葉や書き言葉との違いに気づくことができる」「目的に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができる」「情報と情報との関係付けの仕方、語句と語句との関係の表し方を理解して使うことができる」は問題の正答率が全国・県平均よりも高い。 ●読むこと・書くことにおいて、問題の正答率が全国・県平均よりも低い。	・自分の思いや考えを書く経験を意識的に取り入れる。 ・自分の答えや考えに対して、根拠をもって書かせる。 ・長文に慣れ親しむために、年齢に合う本を読むようにし、読書機会を多く設ける。
算数	●問題を正しく解釈し問題分析する力が不足している。 ●「円周」「速さ」「体積」の意味理解が不十分である。 ●図形のイメージができていない。 ●問題の中にイラストや図が示されていると、正答率が上がったが、文章だけだと読解に難がみられる。 ●文章で解答する上で、説明が長く分かりにくい。 ●たくさんの情報から必要な情報を読み取る力が不足している。	・「問題→正しく読む→図に表す→式化」を学校全体で意識する。 ・学習した内容を繰り返し復習させる。 ・具体物操作等の活動を通して量感を養う。 ・日頃から問題を考えるツールとして、関係図やイラストを活用する習慣をつける。 ・文章で解答する上で、説明を簡潔にさせるために、短い言葉で書くことや要点を絞りながら表現することを他教科でも意識しながら指導する。

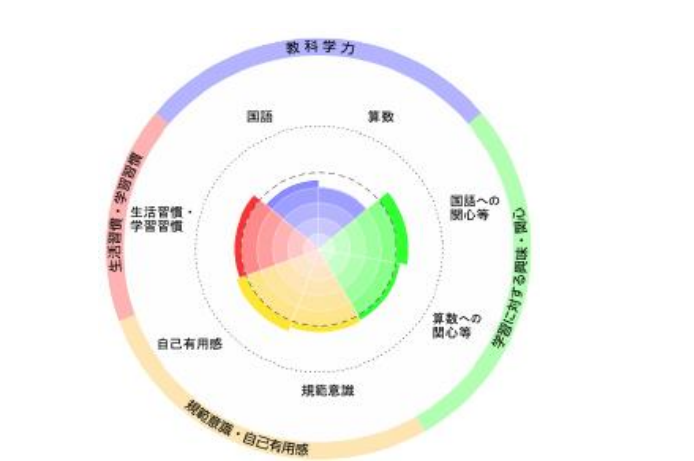
(2)質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○健康に生活するための意識付けができています。 ○研究主題の1と2がそのまま生きてきている。 ○直接触れ、実験する活動が多いため理科への興味が生まれているのではないか。 ●ICT機器の活用と英語に関しては児童が必要感を抱けていない。 ●多様な回答方法を考えているために時間が足りていないのではないか。	・英語に触れる機会を増やす。 ・ICT機器を活用して友達と考えを共有したり比べたりする機会を増やす。

(3)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

本校の研究仮説でもある「児童にとって、必然性のある学習課題を設定し、問いを工夫することで、自らの考えを持つことができる児童が育つだろう。」「考える視点を明確にし、目的をもって自ら考えを伝え合う場を設定することで、対話的に問題を解決する児童が育つだろう。」の検証を、今後の授業実践を通して、さらに深めていく。

【受検者数】
15 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。